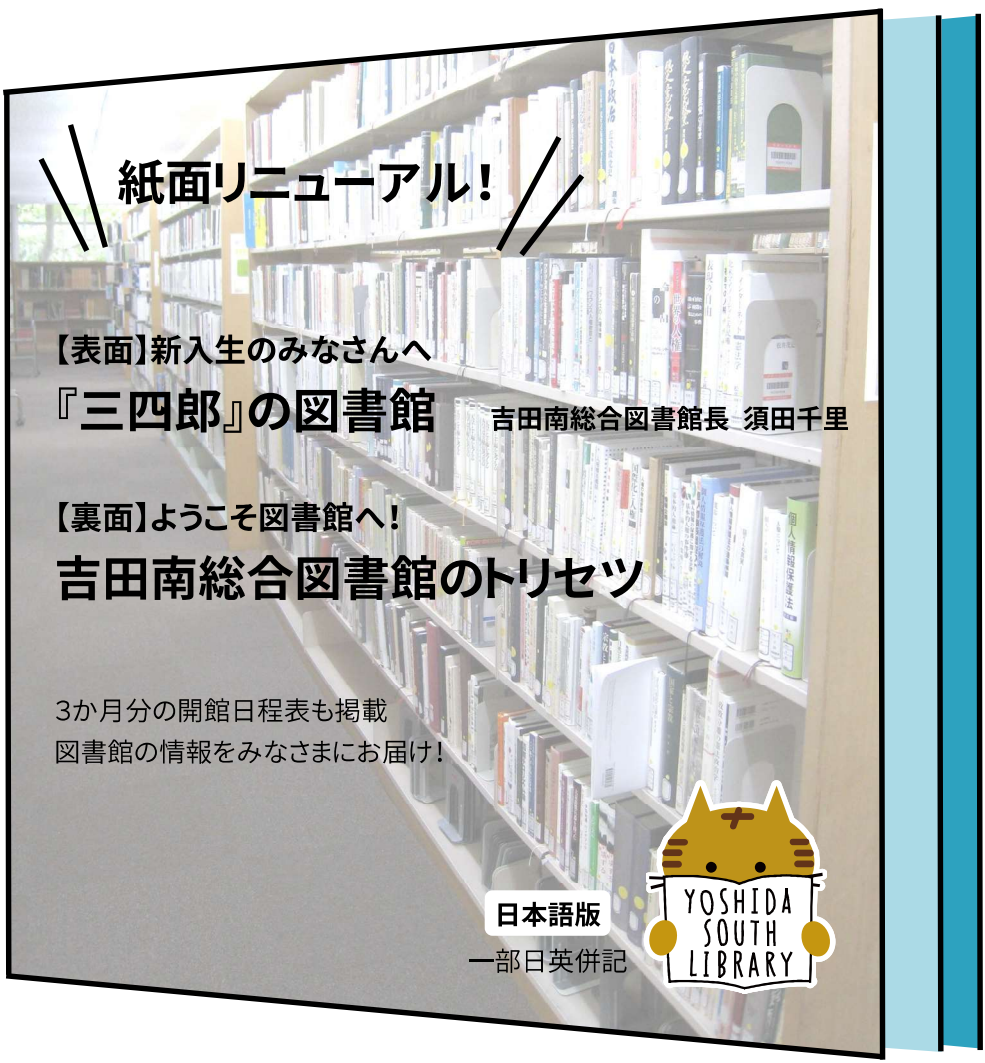
No.1 2020.4.1
Kyoto university Academic LIbrary Newsletter

KALIN



紙面リニューアル！

【表面】新入生のみなさんへ

『三四郎』の図書館

吉田南総合図書館長　須田千里

【裏面】ようこそ図書館へ！

吉田南総合図書館のトリセツ

3か月分の開館日程表も掲載
図書館の情報をみなさまにお届け！

日本語版
一部日英併記

YOSHIDA SOUTH LIBRARY

『三四郎』の図書館

吉田南総合図書館 館長　須田千里

一〇〇年以上前の一九〇八年、熊本の第五高等学校を卒業した小川三四郎は東京帝国大学文科大学に入学する。言わずと知れた夏目漱石の青春小説『三四郎』の主人公である。

二十三歳の三四郎の廻りには、博大な知見をもちながら第一高等学校の英語教師に甘んじている「偉大なる暗闇」広田先生や、同郷の先輩で理科大学に勤める野々宮宗八、事情通の友人佐々木与次郎らがいる。彼らに加え、知的で謎めいた里見美禰子（みねこ）や野々宮の妹よし子とも交流する中で、三四郎は成長していく。

新入生の三四郎には見聞きするものすべてが新鮮で、図書館はまずその立派な外観に感服する(われらが吉田南総合図書館よりも立派だった?)。しかしやがて、講義を聴いても物足りなくなった三四郎は、与次郎から「下宿屋のまづい飯」のような講義なんか聞かず、図書館へ行け、と教えられる(ちょっと耳が痛い。ともあれ自学自習は大切!)。

しかし、三四郎には何を読んでいいかさえわからない。一年生は書庫に入れないから(吉田南総合図書館では一回生から入れます!)、図書目録カードを漠然とめくってみるが、その分量に圧倒される(いまならKULINEで適当な語句を入れて検索すればいいが、全体の蔵書量は見当もつかないだろう。なお、当館二階には過去のカードボックスも残してある)。

館内で静かに勉強する多くの学生にも圧倒された三四郎はそのまま退散するが、翌日は思い切って掛員から書庫内の本を出して貰う。本を間違って請求したり、いざ手に取ると難しすぎたりと試行錯誤しつつ、三四郎は毎日八、九冊(!)借りてみるものの、ほとんど読まない(いわゆる「積ん読」ですな)。

しかし驚いたのは、どんな本にも必ず鉛筆で書き込みや印が付いていることだった(もちろんこれはNG!)。自分の無知無力を思い知った三四郎は、しかし喫茶店で見かけた広田先生の超然とした姿に感化され、図書館に引き返して例になく充実した読書をする。最後に開いた本の書き込みには、真理と一体化したヘーゲルの講義を聞くため学生がベルリン大学に集まったのに対し、今の学生は就職のため講義を丸写しするような「のっぺらぼう」な機械である、とあった。漱石は無垢な三四郎を通して、徒らに煩瑣に見える講義、就職のためにそれを暗記する学生など、当時の大学教育の問題点を指摘していたのだ(いまは講義も試験のあり方もだいぶ改善されていると思うのだが)。

システムは格段に進歩したが、大学や図書館の本質は今も昔も変わらない。新入生の皆さん、広く深い知の海を思うがままに逍遙する吉田南総合図書館(愛称「逍遙館」)へ、ようこそ!

大学院人間・環境学研究科教授（日本近代文学専攻）

Sanshiro at the Library

Director, Yoshida South Library *SUDA Chisato*

More than 100 years ago, in 1908, Ogawa Sanshiro graduated from high school (the equivalent of present-day college) in rural Kumamoto, in Kyushu, and started graduate studies in the College of Liberal Arts at Tokyo Imperial University. He is, of course, the protagonist of Natsume Soseki's classic coming-of-age novel Sanshiro.

At the age of 22 (or 23 by Meiji-era count), Sanshiro finds himself among such characters as the enigmatic Professor Hirota, nicknamed the "Great Darkness," a deeply learned man content to teach high-school English; Nonomiya Sohachi, a somewhat older young fellow from the same hometown who works in the College of Science; and his cynical friend Sasaki Yojiro. As Sanshiro gradually matures, he also meets women, the intellectual and mysterious Satomi Mineko and Nonomiya's younger sister Yoshiko.

For Sanshiro, as a newly enrolled student, everything he sees and hears is fresh, and when visiting the library for the first time, is astounded by its splendor (could it have been greater than our Yoshida-South Library?) Eventually Sanshiro, who comes to be dissatisfied with his lectures, is told by Yojiro to "ignore those boring lectures, they're worse than boarding-house food. Go to the library instead!" (That's a tough thing for a professor to hear, but it's true that studying on your own is important!)

However, Sanshiro isn't even sure what to read. First-year students are not allowed into the stacks (they are at Yoshida-South Library, though!), so he flips vaguely through the library card catalog, overwhelmed by the number of books. (Today, you can search for books using keywords and phrases on KULINE, but it won't give you a sense of the size of the library's holdings. But we still have the old card catalog on the second floor!)

Also overwhelmed by the sight of so many students studying quietly in the library, Sanshiro flees, but the next day he comes back, takes the plunge, and asks a clerk to retrieve some books from the stacks. It's a process of trial and error – he requests the wrong books, opens books only to find they're too difficult, and so on – but eventually he starts borrowing books from the library, eight or nine of them a day (!) However, he barely reads them (like the recent Japanese buzzword tsundoku, which describes people who keep stacks of books around but don't read them much).

What surprises him most, though, is that every single book has been written on in pencil or marked (obviously a no-no!) Sanshiro realizes that he is quite naïve. Later he is inspired by the transcendental detachment of Professor Hirota, whom he observes at a coffee shop, to return to the library and read with unprecedented avidity. The last book he opens has been written in, comparing students who once gathered at the University of Berlin to listen reverently to Hegel's lectures to today's students, like "monotonous machines," who dully copy down lectures word for word all for the sake of future employment. Through the innocent Sanshiro, Soseki sharply pointed out problems with university education at the time, such as abstruse lectures and students who memorized them in the hope of getting good jobs (today's lectures and exams are much improved, in my opinion.)

While their systems have evolved dramatically, the essence of the university and the library remains unchanged. Incoming students, welcome to the Yoshida South Library (nicknamed "Shoyokan"), where you are free to explore the vast, deep sea of knowledge as you wish!

Professor, Graduate School of Human and Environmental Studies, Modern Japanese Literature

ようこそ！

よしだみなみそうごうとしょかん

吉田南総合図書館のトリセツ

2020 ver.

新入生のみなさん、はじめまして！ 吉田南総合図書館（逍遥館）です。新しく始まる大学生活、期待も不安もあるかと思います。勉強方法もこれまでとは変わってくると思うので、図書館をフル活用して充実した京都大学ライフを送ってもらえるよう、吉田南総合図書館のトリセツをつくりました。ぜひご覧ください！

1. 入館ゲートを通るときは学生証でピッ！

みなさんの学生証はICカードなので、入館ゲートは学生証をかざせば開くようになっています。本を借りるときも、自動貸出機に学生証をあてれば貸出ができますよ。京大生の証、無くさないようくれぐれもご注意ください！

ちなみに学部生の方は1F、2Fの図書は5冊まで、2週間借りることができます。貸出冊数は図書館・室ごとに異なり、それぞれ別カウントですので合わせるとたくさん借りられますよ。

夏休みなどの長期休みには、長く借りられる特別貸出があります。

2. 本を探すのはKULINE（クライン）で！

京都大学には約50か所の図書館・室があります。探している本がいったいどの図書館・室にあるのか、どの棚に並んでいるのか、検索できる頼もしいシステムが**「京都大学蔵書検索KULINE」**です。

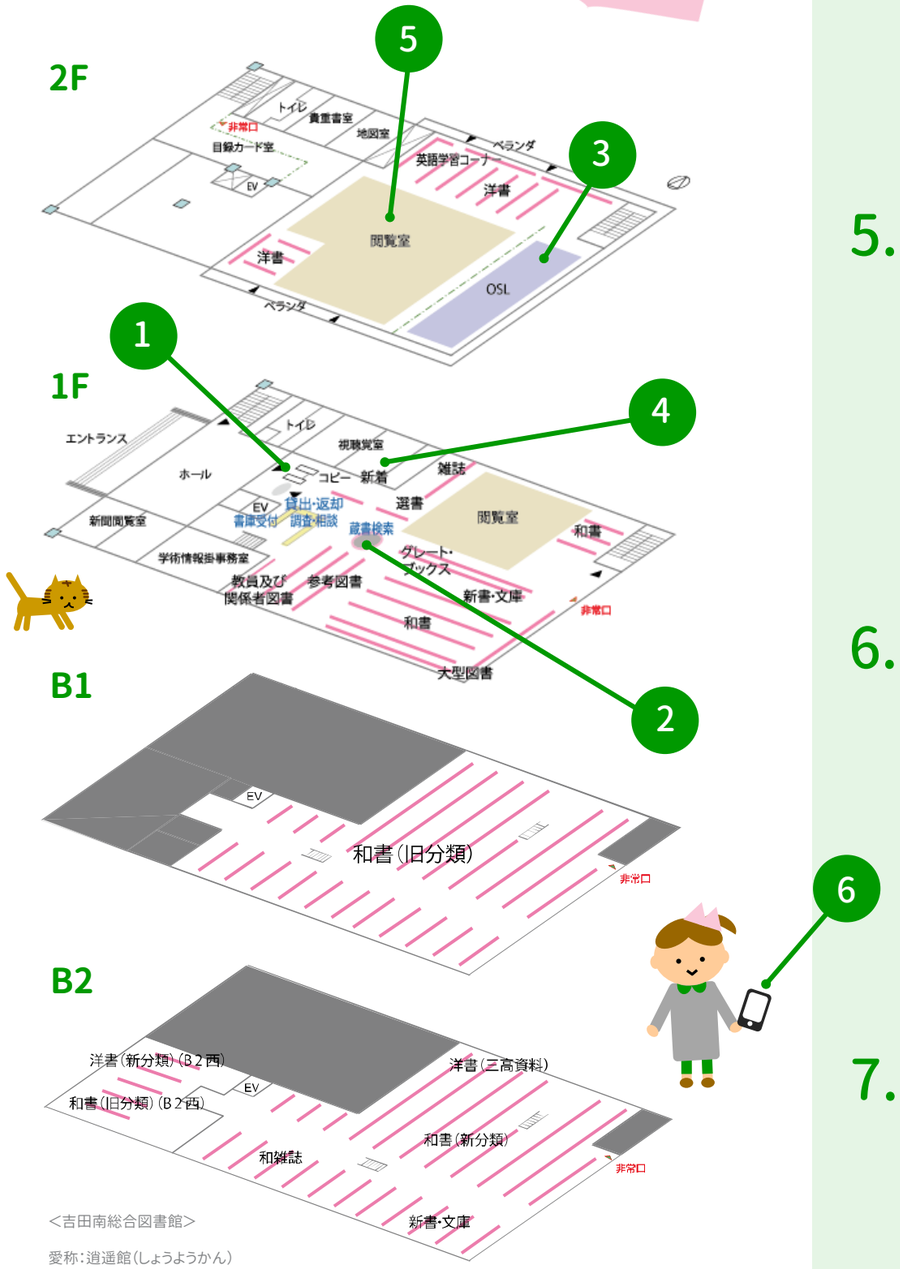
情報環境機構のECS-ID（a0******）とパスワードでログインすれば、「MyKULINE（マイクライン）」もご利用いただけます。こちらは本の予約や貸出期間の延長、貸出履歴の参照ができる便利なサービスです。

3. 電子ジャーナル（EJ）、電子ブック（EB）も読める！

図書館一番奥にある階段をあがったところが、PCがあるOSL（オープン・スペース・ラボラトリ）コーナーです。こちらのPCもECS-ID（a0******）とパスワードがあれば、レポートや調べものにご利用いただけます。

さらに、学内のPCなら電子版の雑誌や本を読むこともできますよ。京都大学ではEJ(4万タイトル以上)、EB(5万タイトル以上) を契約し、みなさんに提供しています。

コンセントや無線LANを完備しているので、自分のPCを持ち込んで作業することもできます！ 印刷については情報環境機構のサイトをご参照ください。



<吉田南総合図書館>

愛称：逍遥館（しょうようかん）
蔵書数：約70万冊
開館時間：[平日] 9時-20時 [土] 10時-15時

本は背ラベルの番号（請求記号）の順に並んでいます。もし「本が見つからない」「探し方が分からない」など、分からないことがあればお気軽にスタッフまでお声がけくださいね。

6

7

「はじめてBOOK」はホールで配ってます

4. DVDが視聴覚室で見られる！

吉田南総合図書館の特色のひとつが、こちらの視聴覚室です。古典や話題の映画、ドキュメンタリーやアニメ作品など、幅広い資料を揃えた人気コーナーです。

DVDは貸出できないので、視聴覚室で見てくださいね。

5. レポート作成や自習には閲覧室を使おう！

1F閲覧室は約90席、2Fの閲覧室は約270席あります。論文やレポートの作成に、自習に、ぜひご利用ください。

友人と相談しながら課題を仕上げたい、資料の打ち合わせをしたい、そんなときには**「話せる図書館 環on（わおん）」**をご利用ください。環onには本は置いてありませんが、無線LANが使えますし、ホワイトボードやノートPCの貸出などもおこなっています。場所は吉田南総合図書館の向かい、人間・環境学研究科棟の1F東側です。

6. 図書館のお知らせはWeb、Twitterをチェック！

吉田南総合図書館は、京大生のみなさんへいろいろな情報を発信しています。Webサイト、Twitter、KALINのチェックをお願いします！

<Web>　http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/

<Twitter>　@yoshidasouthlib

<KALIN>　吉田南総合図書館のNewsletterです。館内のホール・カウンター周辺、環on、生協吉田ショップなどで配布しています。

Web

Twitter

7. 図書館機構スタンプラリーと吉田南総合図書館ウォークラリーやってます！

より図書館を知ってもらうための新歓イベントをおこなっています。

スタンプラリー

附属図書館、吉田南総合図書館を含めた京都大学の図書館・博物館を5か所以上まわってスタンプを集める企画です（4/2～5/15まで）。図書館機構オリジナルグッズをさしあげますので、興味がある方はぜひご参加ください。

ウォークラリー

吉田南総合図書館で開催します（4/6～4/17まで）！ ホールで配布している「はじめてBOOK」片手にポイントをまわってくださいね。クイズに答えてキーワードを完成させた方には記念品を進呈します。今年の記念品はオリジナルトートバッグ（右図・新入生限定先着200名）です。たくさんのご参加お待ちしています。

本館開館日程表

00 9:00-20:00　00 10:00-15:00

00 休館　00 定例休館

4

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

4月

■吉田南総合図書館ウォークラリー
6日(月)～17日(金)

■論文・レポート執筆のススメカタ
「レポートを書くために」
初級12:30～、中級16:30～
21日(火)、22日(水)、24日(金)、
27日(月)、30日(木)

5月

企画展示

「What's TADOKU?」
6月末まで開催中
2F洋書コーナーにて

6月

■創立記念日
18日(木)

環onのご案内

話せる図書館　環on(わおん)
(人間・環境学研究科棟1F東側)

開室:月～金　9:00-17:00
休室:土・日・祝日、本館休館日(定例休館を除く)

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称:逍遥館(しょうようかん)) 〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel : 075 (753) 6524, 6525 Email : a30yslib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
Web : http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/ Twitter : @yoshidasouthlib

Web